



左
川
ち
か

2022

新たに開かれる詩/モダニズム/世界

2022・8・3・水・14:00~17:30

立命館大学衣笠キャンパス・創始館カンファレンスルーム

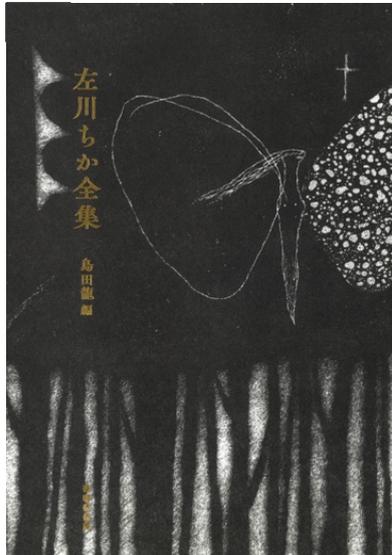
主催・立命館大学国際言語文化研究所

協賛・書肆侃侃房 参加登録→

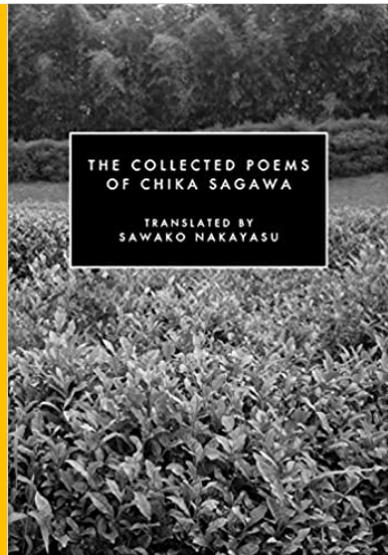
JSPS 科研費「英語圏モダニズム文学における複数の

時間性に関する包括的研究」(20H01244)





2015年にサワコ・ナカヤス訳 *The Collected Poems of Sagawa Chika* が米国で出版、2022年に翻訳も含めた全作品を網羅した島田龍編『左川ちか全集』が日本で刊行され、死後百年を経て脚光を浴びるモダニズム詩人左川ちか(1911-1936)。今回『左川ちか2022——新たに開かれる詩/モダニズム/世界』では、左川の文学とレガシーについて、詩作と翻訳のつながり、そしてグローバル・モダニズムの視点からの討論に加えて、作品朗読の場を設けて、新たに評価を試みる。



参加登録はこちらから→
<https://forms.gle/onZi4YZbwLcX73vq8>



名古屋外国語大学世界教養学部教授。専門は20世紀前半の日本モダニズム詩。「モダニズムの身体—1910年代~1930年代日本近代詩の展開」(『モダニズムを俯瞰する』2018)、「左川ちかの声と身体—「女性詩」を超えて」(『比較文学研究』2020)など。



エリス俊子



小川公代

上智大学外国語学部教授。専門はロマン主義文学、および医学史。著書に『ケアの倫理とエンパワメント』(講談社)、『文学とアダプテーション——ヨーロッパの文化的変容』(共編著、春風社)、訳書に『エアスマイキング』(シャーロット・ジョーンズ著、幻戯書房)など。

東京都出身。立命館大学人文科学研究所研究員。専門は日本文化史。編著『左川ちか全集』(書肆侃侃房)。論文「左川ちか翻訳者：1930年代における詩人の翻訳と創作のあいだ」(『立命館文学』677号)など。



島田龍



サワコ・ナカヤス

詩人・翻訳家・パフォーマンスアーティスト。ブラウン大学助教。横浜生まれ、6歳で渡米。詩集に *Some Girls Walk Into The Country They Are From* (Wave Books) など。 *The Collected Poems of Chika Sagawa* (Modern Library) の翻訳で2016年アメリカPEN翻訳賞を受賞。

東京大学国際日本研究教育機構准教授。自然主義や島崎藤村の自伝的小説を中心に、日本近現代文学を研究。翻訳学、メディア研究、文学理論にも関心があり、夏目漱石、森鷗外、志賀直哉、吉本ばなななどの小説をルーマニア語に翻訳している。



イリナ・ホルカ



矢代朝子

俳優。東京生まれ。文学座付属演劇研究所、文学座を経て、フリーで舞台、テレビ、映画、などに出演。米国での舞台劇にも招聘出演。2009年より軽井沢高原文庫に関わり、文学展企画、文学作品朗読劇を軽井沢睡鳩荘などで定期的に行う。エッセイ、短歌などの執筆活動も続けている。

司会・通訳：吉田恭子(立命館大学文学部教授)

日本語使用(一部英語からの通訳あり)

2022年8月3日(水) 対面&後日映像配信

発表報告：14:00~16:00(開場13:30)

朗読・ディスカッション：16:30~17:30

場所：立命館大学衣笠キャンパス

創思館1Fカンファレンスルーム(マップ30)

主催：立命館大学国際言語文化研究所

科研費課題番号20H01244

協賛：書肆侃侃房

参加無料・要参加申込(対面&配信とも要オンライン登録)

問合せ：文学部・吉田恭子 [kyoko\(at\)fc.ritsumei.ac.jp](mailto:kyoko(at)fc.ritsumei.ac.jp)

左川ちか2022: 新たに開かれる詩/ モダニズム/世界

